

「インサルト」の目

目のあたりにした 中国経済の活力と将来展望

昨年暮、中国江蘇省の工業団地にある、さる日本企業の現地法人を訪問し、同時に上海および周辺地域を見て回る機会を得た。先ず驚かされたのは自動車の数が増えたことである。交通渋滞と交通事故は日常茶飯事で、観光バスは一般道路を走りたがらない。車窓から外を眺めると、何処へ行っても

クレインが散見し、日本の高度成長期を思わせる都市部の再開発や道路建設、それに郊外における都市化の波がまだまだ進行中である。夜の上海は街路にイルミネーションを施し、かつての外国人支配の時代に「魔都」と呼ばれた喧騒と活気が、今や中国人自身の手で現出されている。こうした第一印象はこの地を訪れる誰もが抱くに違いない。しかしこうした大都市の繁栄は、広大な中国全域からすれば「矛盾に満ちた東の幻想」に過ぎないのかもしれない。

中国の現実と将来について、専門家の間でも今様々な思惑が飛び交っている中、自分なりに将来の中国を読み解いてみたいと思ひ、敢えて浅学を省みず私見を纏めてみた。

日本と変わらぬ商品・風俗

上海市内を見る限り、伝統的な中国文化を感じさせるものを見出すのは難しい。ここが中国本土であるにも拘らず、豫園と呼ばれる旧租界の外にある一角は、諸外国の大都市にある「チャイナ・タウン」のように、恰も異文化地域であるかのような錯覚を覚えるのである。中国的な土産物を探そうとすると、先ずはこの一角か水郷古镇のような観光地にしか売っていない。他の地域では中国服を見るのも珍しいし、百貨店や一般の商店に置いてある身の回りの商品も日本と殆ど変わらない。それ程ま

でに中国人の生活様式が欧風化されてしまっており、中国服に代表される伝統的な中国文化は少なくとも上海市民からは綺麗さっぱりと捨て去られてしまったかのようと思われる。旧租界も殆どが再開

発され、当時の面影を見出すのは困難である。街中には依然として物乞いする人影が見られるが、その殆どは中年以上の旧世代であり、若い人は皆夫々にブランド品を身に纏い、颯爽として街を歩いている。彼等を雇っている事業者からすると「中年以上はマナーが悪くどうにもならないが、若者は素直で躰け易い」という。これも過去二十年に亘る経済成長の為せる業であり、経済的な豊かさや国民の意識を変える原動力となったことは間違いない。少なくとも外から見る限り、中国の「中産階級化」政策は着実に進みつつあり、新旧世代間の断絶をはらみつつ

も、「情報化社会への積極的な取り組み」、「イデオロギーに囚われない宗教・思想の規制緩和」と相俟って、「自由市民社会を目指した国民の意識変革」政策は成功しつつあるように見受けられる。

日本を遙かに凌ぐ スケールとスピード

既に始まった中国のWTO加盟、三年後に控えたオリンピック開催を考慮に入れても、中国政府による「農村の工業化」と「都市部の再開発」に掛ける意気込み、計画のスケールと実施のスピードには驚かされる。荒涼とした水郷の一角に突如として高層住宅群を伴った近代的な工業都市を現出させる様は圧巻である。場所が指定されると、一週間以内に住民の立ち退きが行われ、すぐさま造成と建築が始まる。土地が国有であるため、日本のように何年も掛けて

買取工作をする必要が無い。また地震の無い土地なので基礎や躯体工事に時間が掛かることも無い。高層住宅群はどこも同じ様な作りであるが、場所により色やデザインが異なり、いずれも輝いて見える。インフラを含む誘致条件も自治体間が競争で夫々の特色を競っている。その点では日本各地の工業団地の誘致政策に似ているが、広大な土地、豊富な労働力を背景に、何万戸という住宅や、都市機能など充実したインフラを税制面の優遇策と共にセットで準備してしまう施策は見事である。中国ではこうした工業化政策が、荒廃した農村とその住民を救済する雇用政策にもなっているのである。

**都市と農村の所得格差は
社会・経済発展の原動力**

「都市レベルで数十倍、個人レベルで数百倍といわれる地域間の所得格差は更に拡大し、いずれ民衆暴動を招き、中国社会を崩壊に導く」との仮説がある。しかし上海に関する限りこれはあてはまらない。なぜなら都市部の経済が奥地からの出稼ぎ労働者それも働き盛りの若年労働者によって支えら

れているからである。さる企業は三年ごとに内陸部で従業員を募集し、そつくり入れ替える。うぶな若者も三年経つと都市に馴染んで生気になり使いずらくなるからだという。一方、所得水準の低い内陸部では、働き盛りを都市やその周辺の工業団地へ出稼ぎに出すことよって高い文化と所得の恩恵にあずかることができる。したがって、「都市部とその周辺における著しい経済発展」すなわち「中国製品の無類なコスト競争力」は、こうした「地域間の人口移動を前提にした中国全土の効率的な人材運用の結果もたらされた事実」ということになる。都市部は勿論のこと内陸部の所得水準も確実に上昇しており、「全国的なレベルで不満が鬱積し爆発する」といったことは考え難い。

**共産党一党支配は
発展の強力なドライバー**

こうした政策は、実は共産党執行部によって意図的に推進されており、その政治組織の特徴は、「一党支配」と「議(会)行(政)合一」である。もしこれが理想的に行われるならば、欧米の「政党政治」「三権

分立」と比べて桁違いに効率の良い推進体制であることが分かる。また中国の場合には、土地が国有化されているため地価の高騰は起きないし、面倒な所有権売買も必要無いので、なお更効率が良くなる。ただし

最近の中国に見られる政治制度改革への取組み

方針	具体的施策
① 法治国家への移行・WTO加盟に伴う法整備	
② カリスマ支配排除・党幹部の公開選抜・役職定年制	
③ 優秀幹部の抜擢・市民の事前公示/公募、競争上岗	
④ 汚職腐敗対策・引責辞任、アンケート最下位者淘汰	
⑤ 議会制度強化・地方議会による行政への監督・立法	
⑥ 地方政治の民主化・郷鎮行政首長の直接選挙	

一方で、不正や腐敗が行われ易い欠点を持っている。しかしながら、ニューリーダーと呼ばれる中国の現政権はいずれも有能なテクノクラート集団で、腐敗防止と活性化を目的とした、理想の高い政治制度改革に自ら取組む姿勢を示しており、当面腐敗する心配は無い。

彼らは、「対外解放路線」と「経済成長を最優先する」政策を継承することで、共産主義というイデオロギーを有名無実化し、将来的に社会民主主義を志向した「緩やかな民主化路線」を着実に歩んでいくと見られる。

**現地法人は、政治より
経済リスクに警戒すべし**

中国へ進出した現地法人にとって警戒すべきは、「現政権が崩壊したり腐敗する政治的リスク」より、「対外開放経済化、WTO加盟によってもたらされる今後の経済ならびに政策運営のリスク」である。商品によっては国内経済が既に供給過剰の兆候を示しているものも出てきており、景気変動による経済恐慌を遠からず経験することになるであろう。賃金等の上昇、為替の切り上げも目前に控えている。投機マネーにより為替が翻弄されるといったこともあるに違いない。ニューリーダーによって解放経済は始めての経験であり、一度経済運営を誤るならば、進出企業への影響は測り知れないものがある。

(中小企業診断士 新井将平)